

# A. Wald の Sequential Test の 基本公式について

統計数理研究所員 小川瀧次郎

はしがき

J. Neyman と E. S. Pearson とに依る統計的仮説の検定の理論 (Theory testing Statistical hypothesis) と云ふのは次の如くである。統計的仮説と云ふのは母集団の確率密度函数の含むパラメータに関する命題である。今簡単な爲に母集団の密度函数を  $f(x, \theta)$  として、 $\theta$  の可能な値は  $\theta_0, \theta_1$  の二つしかない場合を考へる。 $\theta = \theta_0$  なる仮説を  $H_0$ 、そのときの密度函数を  $f_0(x)$ 、 $\theta = \theta_1$  なる仮説を  $H_1$ 、そのときの密度函数を  $f_1(x)$  とする。今仮説  $H_0$  をその反対の対立仮説  $H_1$  に対して検定しようとするのである。

標本の大きさを  $N$  として  $N$  次元の標本空間  $E_N$  中に適当な臨界域  $W_N$  をとって標本  $P(x_1, \dots, x_N)$  が  $W_N$  に落ちるとき  $H_0$  を棄却しよう。即ち  $H_1$  を採択しようとするのである。このときの第一種の過誤 —  $H_0$  が正しいにも拘はらず之を棄却する確率  $\alpha$  は

$$\alpha = \int_{W_N} \dots \int f_0(x_1) \dots f_0(x_N) dx_1 \dots dx_N \quad (1)$$

で与へられ、第二種の過誤 —  $H_0$  が偽なるとき之を採択する確率  $\beta$  は、 $H_1$  が真なるとき之を捨てる確率であるから

$$\beta = \int_{W_N} \dots \int f_1(x_1) \dots f_1(x_N) dx_1 \dots dx_N \quad (2)$$

( $W_N$  は  $W_N$  の補集合)

即ち  $1 - \beta = \int_{W_N} \dots \int f_1(x_1) \dots f_1(x_N) dx_1 \dots dx_N \quad (3)$

431

である。而して予め  $\alpha$  を指定したとき (1) を満足する  $W_N$  は一般に幾つかあって之を大工のなま相異なる臨界域と云ふ。問題は  $\beta$  が最小となる如く即ち  $1-\beta$  が最大となる如く  $W_N$  をとり之を *most powerful critical region* (最強力臨界域) と云ふ。

今 (1) を満たす  $\Rightarrow$  の領域  $W_N, W'_N$  があつたとすれば

$$\begin{aligned} & \int_{W_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N \\ &= \int_{W_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N + \int_{W'_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N \end{aligned} \quad (4)$$

$$\begin{aligned} \text{而して} \quad & \int_{W_N} f_0(x_1) \cdots f_0(x_N) dx_1 \cdots dx_N = \lambda \\ &= \int_{W'_N} f_0(x_1) \cdots f_0(x_N) dx_1 \cdots dx_N = \lambda \end{aligned}$$

であるから

$$\int_{W_N} f_0(x_1) \cdots f_0(x_N) dx_1 \cdots dx_N = \int_{W'_N} f_0(x_1) \cdots f_0(x_N) dx_1 \cdots dx_N \quad (5)$$

$$\begin{aligned} & \int_{W_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N - \int_{W'_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N \\ &= \int_{W_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N - \int_{W'_N} f_1(x_1) \cdots f_1(x_N) dx_1 \cdots dx_N \end{aligned} \quad (6)$$

であるから  $W_N$  として、若し

$$\frac{f_1(x_1) \cdots f_1(x_N)}{f_0(x_1) \cdots f_0(x_N)} \geq k \quad (7)$$

なる領域をとれば  $W_N$  では  $1-\beta$  は最大となる

### § 1. A. Wald の Sequential Test

そこで、A. Wald は次の如き sequential test なる思想を導出した。單純仮説  $H_0$  を只一つの対立

仮説  $H_0$  に対して検定しようとするときは、先づ標本を一つとり一次元の標本空間を三つの部分  $R_0^1, R_1^1, R_2^1$  に分けて、標本値  $X_1$  が  $R_0^1$  に入れば  $H_0$  を棄却 ( $H_1$  を採択) し、 $R_1^1$  に入れば  $H_0$  を採択し、 $R_2^1$  に入れば、更に一つの標本をとり、二次元の標本空間を三部分  $R_0^2, R_1^2, R_2^2$  に分ち、標本値  $(X_1, X_2)$  が  $R_0^2$  に落ちれば  $H_0$  を棄却し、 $R_1^2$  におちれば  $H_0$  を採択し、若し  $R_2^2$  に落ちれば、更にもう一つの標本  $X_3$  を取り、三次元の標本空間を三部分空間  $R_0^3, R_1^3, R_2^3$  に分ち、標本値  $(X_1, X_2, X_3)$  が  $R_0^3$  に落ちれば  $H_0$  を棄却し、 $R_1^3$  に落ちれば  $H_0$  を採択し、若し  $R_2^3$  に落ちれば更にもう一つの標本  $X_4$  をとり出すと云ふ風に続けて行く。一般に  $m$  箇の標本  $X_1, X_2, \dots, X_m$  を取ったときは  $m$  次元の標本空間を  $R_0^m, R_1^m, R_2^m$  なる三つの部分空間に分けて標本値が  $R_0^m$  に落ちれば更に一つ標本  $X_{m+1}$  をとって考へる。

而して従来の Neyman-Pearson の検定論は次の如く考へれば sequential test の special case と考へられる。即ち  $R_1^0 = R_1^1 = 0, R_2^0 = R_2^1 = 0, \dots, R_{N-1}^0 = R_{N-1}^1 = 0, R_N = 0$

この sequential test では標本数  $n$  が random variable である。第一種の過誤の確率  $\alpha$  は仮説  $H_0$  の下で

$$\alpha = \sum_{n=1}^{\infty} P_Y^0 \{ n = n \} \int \dots \int_{(x_1, \dots, x_n) \in R_0^0} f_0(x_1) \dots f_0(x_n) dx_1 \dots dx_n$$

但し

$$P_Y^0 \{ n = n \} = \int \dots \int_{\substack{x_i \in R_1 \\ (x_1, x_2) \in R_2 \\ \dots \\ (x_1, x_2, \dots, x_{m-1}) \in R_{m-1} \\ (x_1, x_2, \dots, x_m) \in R_m^0}} f_1(x_1) \dots f_1(x_n) dx_1 \dots dx_n \quad (2)$$

433

でよへられぬ第一種の過誤の確率は

$$\beta = \sum_{n=1}^{\infty} P_Y^{b1} \{n=n\} \int_{(x_1, \dots, x_n) \in R'_n} \dots \int f_1(x_1) \dots f_n(x_n) dx_1 \dots dx_n \quad (3)$$

但し

$$P_Y^{b1} \{n=n\} = \int_{\substack{x_i \in R, \\ (x_1, x_2) \in R_2, \\ \dots \\ (x_1, \dots, x_{n-1}) \in R_{n-1}, \\ (x_1, \dots, x_n) \in R'_n}} \dots \int f_{i1}(x_i) \dots f_{in}(x_n) dx_1 \dots dx_n \quad (4)$$

でよへられる。而して検定が終る迄に要する標本の大きさの平均  $E(n)$  は

$$\begin{aligned} E(n) &= \sum_{n=1}^{\infty} n (P_Y^{b0} \{n=n\} + P_Y^{b1} \{n=n\}) \\ &= E_0(n) + E_1(n) \end{aligned}$$

である。

同じ  $\beta$  を有する一つの sequential test と同じ強さの sequential test と云ひ、支へられぬ強さの sequential test  $S, S'$  で同時に

$$E_0(n/S') < E_0(n/S)$$

$$E_1(n/S') < E_1(n/S)$$

のとき  $S'$  は  $S$  よりよい test であると言ふ。

そこで具体的に如何に  $R'_n, R''_n, R_n$  を定めよか  $S'$  問題になるのであるが Wald は Probability Ratio Test として  $0 < B < 1, 1 < A$  なる  $A, B$  を取つて

$$B < \frac{f_1(x_1) \dots f_1(x_m)}{f_0(x_1) \dots f_0(x_m)} < A, \quad m=1, 2, \dots, n-1$$

且つ

$$R_n^0 = \frac{f_1(x_1) \dots f_1(x_n)}{f_0(x_1) \dots f_0(x_n)} \geq A \quad (5)$$

$$R'_n \quad \frac{f_1(x_1) \cdots f_1(x_n)}{f_0(x_1) \cdots f_0(x_n)} \leq B \quad (7)$$

$$R_n \quad B < \frac{f_1(x_1) \cdots f_1(x_n)}{f_0(x_1) \cdots f_0(x_n)} < A \quad (8)$$

で定める。即ち

$$Z_i = \log \frac{f_1(x_i)}{f_0(x_i)} \quad (9)$$

$$Z_n = \sum_{i=1}^n Z_i \quad (10)$$

よすれば

$$R_n^0 : Z_n \geq \log A; \quad R'_n : Z_n \leq \log B;$$

$$R_n : \log B < Z_n < \log A \quad (11)$$

そこで  $\{x_m\}$ , ( $m=1, 2, \dots$ ) 原標本の無限系列のた  
 での集合を  $M_\infty$  で表はし  $M_\infty$  の要素であつて  
 $x_1 = a_1, \dots, x_n = a_n$  となるものゝ集合を  $C(a_1, \dots, a_n)$   
 で表はし *cylindric point of order n* とおつた

$$\frac{f_1(a_1) \cdots f_1(a_n)}{f_0(a_1) \cdots f_0(a_n)} \geq A$$

$$B < \frac{f_1(a_1) \cdots f_1(a_m)}{f_0(a_1) \cdots f_0(a_m)} < A \quad m=1, 2, \dots, n-1$$

となる *cylindric point* を *type I* とおつた

$$\frac{f_1(a_1) \cdots f_1(a_n)}{f_0(a_1) \cdots f_0(a_n)} \leq B$$

$$B < \frac{f_1(a_1) \cdots f_1(a_m)}{f_0(a_1) \cdots f_0(a_m)} < B^0 \quad m=1, 2, \dots, n-1$$

となる cylindrical point を type  $i$  と名づけた。  
 type  $i$  の cylindrical point の集合を  $Q_i$  とするとき  
 無限次元空間  $M_\infty$  で考えれば形式的に

$$\alpha = \int_{Q_0} f_0(x_1) \cdots dx_1 \cdots$$

$$\beta = \int_{Q_1} f_1(x_1) \cdots dx_1 \cdots$$

となる。仮説  $H_i$  ( $i=0, 1$ ) が正しいときに、この  
 sequential test が終る確率を  $P_i$  で表はすとき

$$P_i(Q_0 + Q_1) = 1 \quad i=0, 1 \quad (12)$$

となる。即ち sequential test が無限に続く確率は  
 0 となる。これが基本的な式であって之を用いて  
 $A, B$  と  $A^c, B^c$  との関係が導かれるのである。

Wald は "On cumulative sums of random  
 variables" *Annals of Math. Stat.* Vol. 15, 1944. で  
 之を証明してゐるのであるが、此文献は目下国内  
 になく筆者は未見であるのでこの証明を試みるの  
 で報告する次第である。

## §2. 基本公式 $P_i(Q_0 + Q_1) = 1$ の証明

$$P_i(Q_0) = \sum_{n=1}^{\infty} P_Y^{i0}(n=n) \quad (1)$$

$$P_i(Q_1) = \sum_{n=1}^{\infty} P_Y^{i1}(n=n) \quad (2)$$

であつて

$$P_Y^{i0}(n=n) = P_Y^{i0}(n=n) + P_Y^{i1}(n=n) \quad (3)$$

とすれば証明すべき式は

$$\sum_{n=1}^{\infty} P_Y^{i0}(n=n) = 1 \quad (4)$$

となる。而して

$$P_Y^{i0}(n > n-1) = P_Y^{i0}(n=n) + P_Y^{i1}(n > n) \quad (5)$$

であるから (4) は

$$\lim_{N \rightarrow \infty} P_T^L(M > N) = 0 \quad (6)$$

と equivalent である。吾々次に (6) 式を証明しよう。  
さて

$$P_T^L(n > N) = \int_{\log B < Z < \log A} f_1(x_1) \cdots f_N(x_N) dx_1 \cdots dx_N \quad (7)$$

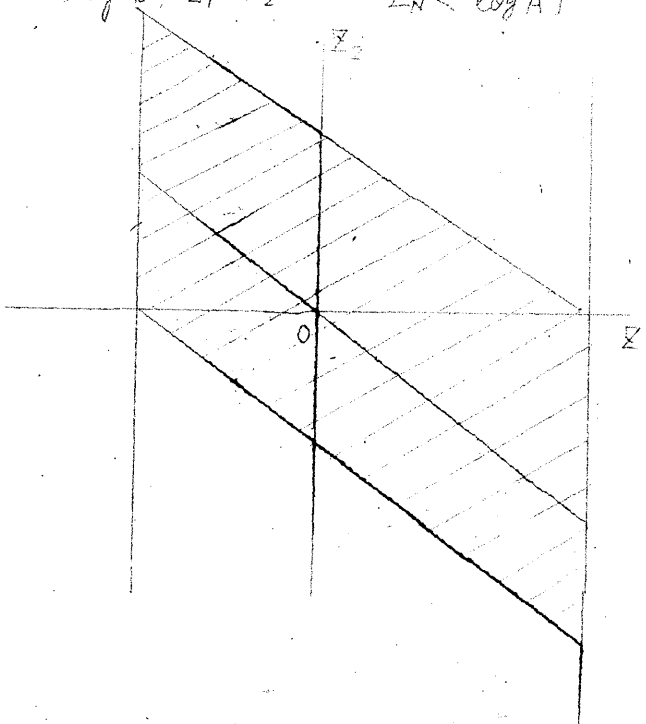
$$\log B < Z + \dots + Z_n < \log A$$

であって、積分領域

$$\left. \begin{aligned} \log B < Z < \log A \\ \log B < Z + Z_2 < \log A \end{aligned} \right\} (Q)_N \quad (8)$$

$$\log B < Z_1 + Z_2 + \dots + Z_N < \log A$$

は



437

$$\left. \begin{aligned} 0 < Z_1 < \log A, \dots, 0 < Z_N < \log A \\ 0 < Z_1 + \dots + Z_N < \log A \end{aligned} \right\} \omega_N^A \quad (9)$$

$$\left. \begin{aligned} \log B < Z_1 < 0, \dots, \log B < Z_N < 0 \\ \log B < Z_1 + \dots + Z_N < 0 \end{aligned} \right\} \omega_N^B \quad (10)$$

とすれば 体積  $V$  は

$$V(\omega_N) = 2^N (V(\omega_N^A) + V(\omega_N^B)) \quad (11)$$

となる。

$\omega_N^A$  で (7) なる積分を計算するには Dirichlet の変換を用いて

$$\frac{Z_1}{\log A} + \dots + \frac{Z_N}{\log A} = S_1$$

$$\frac{Z_2}{\log A} + \dots + \frac{Z_N}{\log A} = S_1 S_2$$

とおくと Jacobian は  $\frac{Z_1 \dots Z_N}{(\log A)^N} = S_1 S_2 \dots S_N$

$$\frac{D(Z_1, \dots, Z_N)}{D(S_1, \dots, S_N)} = S_1^N S_2^{N-1} \dots S_{N-1}^2 S_N (\log A)^N \quad (15)$$

となり  $S$  空間の積分領域は

$$\omega: 0 \leq S_1 \leq 1, \dots, 0 \leq S_N \leq 1 \quad (16)$$

となるから

$$\begin{aligned} & \int_{\omega_N^A} \dots \int f_1(x_1) \dots f_N(x_N) dx_1 \dots dx_N \\ &= \int_{\omega} \dots \int f_1(x_1) \dots f_N(x_N) \frac{D(x_1, \dots, x_N) D(Z_1, \dots, Z_N)}{D(Z_1, \dots, Z_N) D(S_1, \dots, S_N)} dS_1 \dots dS_N \end{aligned}$$